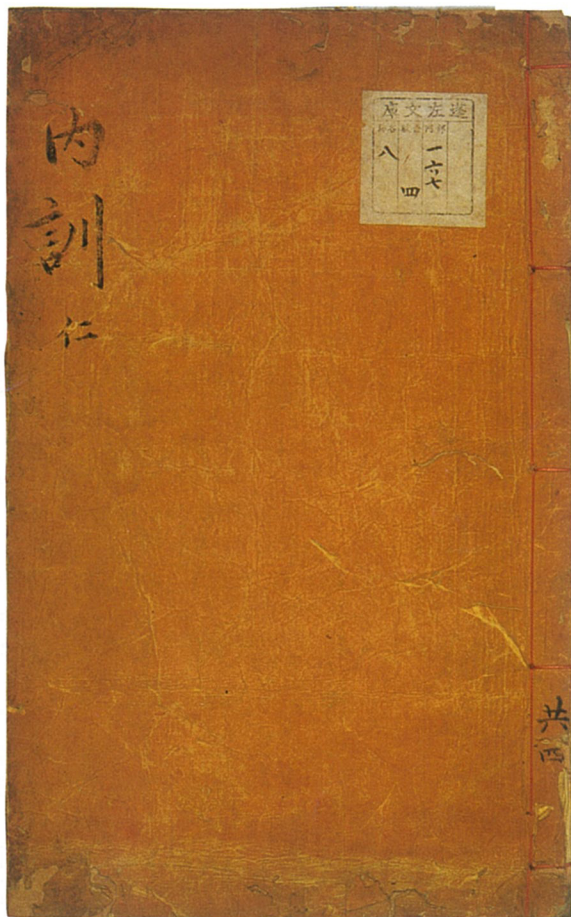
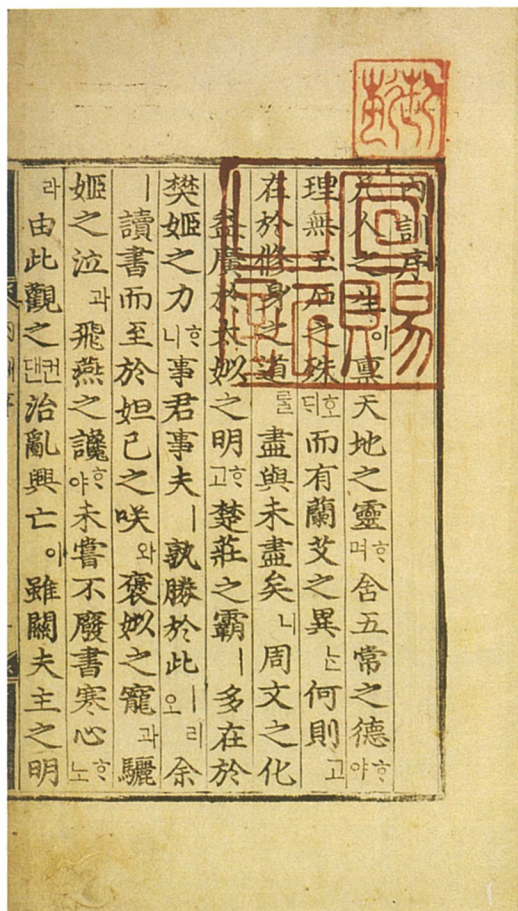


蓬左

HÔSA No.48

名古屋市蓬左文庫
Nagoyashi Hôsabunko

1992. 10



内訓 昭恵王后撰 万暦元年 (1573) 刊 33.0×20.5cm 4 冊

1475年（成宗6年、成化11年）、朝鮮の李朝九代の成宗（1457～94）の母である昭恵王后（1437～1504）が著した宮中に仕える女性のための心得を説いた教訓書。漢文とハングル文字の両方で記されている。

本書は、1455年に鑄造された乙亥字を使用して印刷された朝鮮の古活字本。当時朝鮮では世界最高水準の金属活字印刷がおこなわれており、すぐれた出版物のほとんどは、李朝の王室の後援によって印刷、刊行されていた。大判の黄色の表紙に赤色の糸は、朝鮮本の装丁の特徴。本書見返しには、内賜記と呼ばれ、この書物が万暦元年、王室から成均館典籍（当時の朝鮮の大学の教授）に下賜されたものであることを示す記述がある。また、巻頭の大型の朱印「宣賜之記」は、こうした宣賜本（王室から下賜された書物）にかならず捺されたもの。なお、その上の小型の朱印「御本」は、初代尾張藩主義直の蔵書印で、本書は、義直が父家康の遺品として譲り受けた「駿河御譲本」の一つである。

尾張藩御文庫と中国・朝鮮の文化

1992. 10/3～11/1、11/6～12/6

1993. 1/5～1/31、2/20～3/21

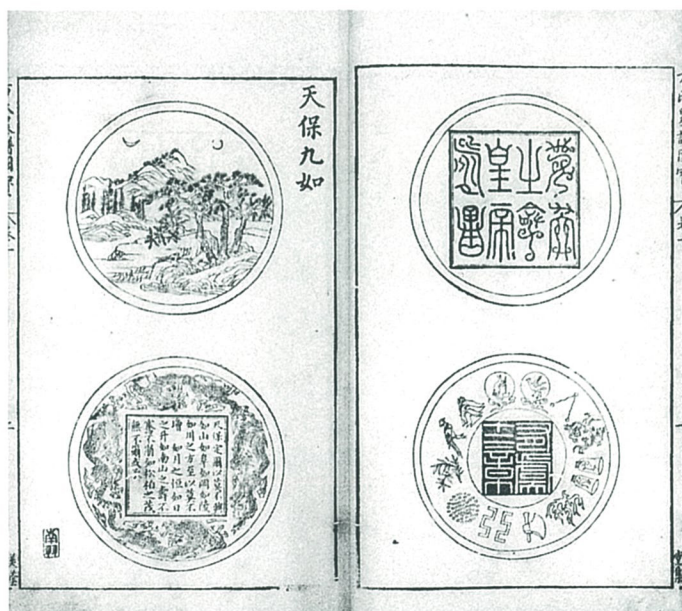
蓬左文庫の重要な特徴のひとつに、すぐれた漢籍（中国朝鮮の書物）のコレクションをあげることができます。これは、蓬左文庫の前身尾張藩御文庫時代の旧蔵書で、そのほとんどが江戸時代のはじめ、初代藩主義直（1600～50）、二代藩主光友（1625～1700）の時代までに収集されたものです。江戸時代を通じて御文庫において、漢籍は、高い割合を占めていましたが、とくに17世紀、文庫の草創期には、蔵書の8割以上が漢籍でした。

元和年間（1615～25）、義直が御文庫を創設した時、その基礎とした家康の遺書「駿河御譲本」3000冊は、家康が晩年駿府（静岡）に営んだ駿河文庫の書物を分譲されたものです。現在当文庫に伝えられる「駿河御譲本」から、家康の蔵書のほとんどが漢籍で、さらにその大半は、16世紀に朝鮮で刊行された朝鮮本であったことが予測されます。13世紀に中国から活字印刷の技術を輸入した朝鮮では、李朝が1403年、王立鑄字所を設立、王室の後援のもと、中国の古典を中心に世界でも最高水準の金属活字印刷による書物が刊行されました。これら朝鮮本は、我が国へは秀吉の行なった朝鮮出兵（1592～98）の戦利品として武将たちによって大量にもたらされ、家康のもとにも収集されることとなりました。また、出版物とともにもたらされた活字印刷の技術は、我が国の印刷文化に多大な影響をおよぼし、家康自身、日本で初めて銅活字を鑄造、「大蔵一覧表」「群書治要」を刊行しています。

徳川家康の第九男に生まれた義直は、とくに学術文化の受容、振興に熱心であった晩年の駿府の家康のもとで幼年期、青年期をすごし、子供達の中でも最も家康の学問好きな面を受け継いだといわれます。桃山から江戸初期にかけては、朝鮮出兵の影響や、儒教の隆盛ともあいまって、家康をはじめ当時の大名達は、中国文化の教養を身につけることに熱心でした。その中でも義直は、この風潮を代表する人物の一人で、名古屋城二の丸内や、江戸の忍岡に聖堂を創設、自らの葬儀や墓所を、儒教式とするなど儒教にたいして強い傾倒を示し、今に伝わる中国製の義直所用の品などからも、中国文化に対する並々ならぬ関心が伺われます。

義直の蔵書は約1万9千冊といわれ、江戸初期の大名の蔵書としては、最大のものでした。蔵書の収集が、もっとも活発に行なわれた寛永3年（1626）から13年にかけての10年間に収集された書物のほとんどが中国貿易によって我が国に流入した中国明代の書物を購入したもので、その内容は、経・子・史・集の漢籍の分類に従えば、各分野にわたり偏りなく収集されており、中国の学術文化の集積を、残らず尾張藩の御文庫に取り込もうとして

方氏墨譜 方于魯編 明時代後期（16・17世紀）刊 7冊 29.2×18.1cm



中国明時代を代表する墨匠のひとり方于魯が編集出版した自作の墨385種のカatalog。墨の表面を飾った図の種類によって分類、収録されている。本書は、二代藩主光友の蔵書。御文庫には、四種の「方氏墨譜」があったが、明治初年その内三種が払い出された。本書は、そのひとつで、近年当文庫に再び収集された。

なお、徳川美術館には、家康の遺品をもとに義直、光友の時代にわたって収集された優れた明墨のコレクションが残されている。これには、本書に収録された墨も十数種含まれ、漢籍の収集とともに、義直等の中国文化への傾倒が伺われるコレクションである。

参考「徳川美術館蔵品抄4 文房具」

いたかのようです。

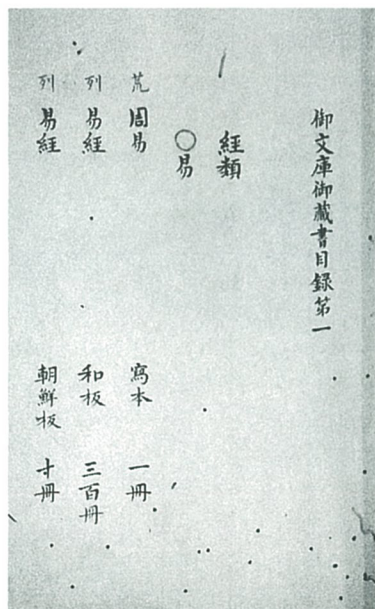
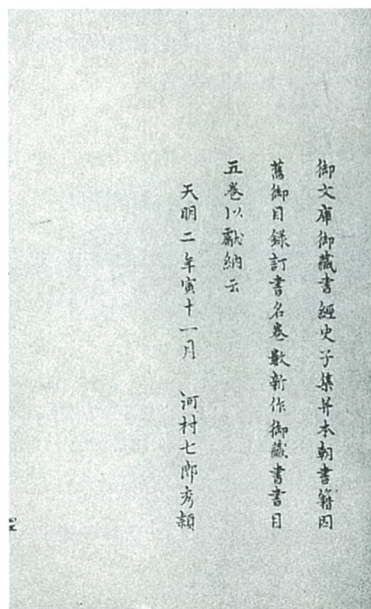
ところで、家康の駿河文庫や尾張藩の御文庫の蔵書収集は、中国の出版事情や文化的風潮と無関係ではなかったはず。家康や義直が蔵書の収集を行っていた時期と相前後して、中国においても、現存する最古の蔵書楼天一閣を創設した范欽（1506～1585）や、現在はその蔵書が北京図書館や、日本の静嘉堂文庫の一部になっている銭謙益（1582～1664）、毛晋（1599～1659）などの著名な蔵書家がでています。10世紀の宋代以降、中国では、印刷文化の普及とその流通機構の発達によって、国家事業としての書物の収集ではない個人の蔵書家が生まれました。とくに明代の出版の多様化、商業化は、よりよいテキストを求め、古い書物を重視する傾向を強め、さらに、清代には、書物の原典を求めて同じ書物についていく種類もの版の異同を比較したり、残されている書物から亡失した書物を復元する考証学が盛んとなりました。これが、いっそうの蔵書家の増加を生み、こうした出版文化の発達とそれとともなう書物重視、優れた古書重視の傾向や、新しい学問の隆盛が、乾隆帝（1711～99）による大叢書「四庫全書」（1万223部の古典を経・子・史・集の四部に分類して収録した膨大な叢書）の編纂（1773～1782）にも結実したといえます。

18世紀以降も、中国貿易による書物の輸入は、盛んでしたが、我が国の印刷文化の発達により、国内での漢籍の出版も盛んとなり、一方では尾張でも、優れた漢学者の業績が生まれています。御文庫を管理する書物奉行を勤めた河村秀頼（1718～83）は、在任中の天明2年（1782）、中国古来の四部分類による御文庫では初の分類目録を作成。これは、中国で1773年から編纂が始まり、同じ天明2年に完成した四庫全書の編纂に刺激されたものとみられ、それはまた、御文庫に、こうした試みを可能にする蔵書が揃っていたことを示しています。

また、尾張藩では、天明5年、かつて家康が銅活字を鋳造して刊行した「群書治要」を、再度幕府所蔵の金沢文庫旧蔵の写本をもとに、他の諸本と調査比較の上刊行しています。さらに、中国では、すでに亡失していた「孝経古註」が「群書治要」に引用されていたことを発見した岡田新川（藩校明倫堂教授、1773～1838）は、その復元に取り組み、寛政5年（1793）「孝経鄭註」を完成させました。どちらも後に中国の叢書に収録されて刊行されましたが、とくに「孝経鄭註」は、中国の学界に大きな衝撃を与えることとなりました。

近代以降、西洋志向の近代化の道を進んできた現代の日本において、我々が、中国文化圏の一員であり、我々の文化がその一郭を担っていることを忘れがちです。江戸時代までの日本は、政治、経済、文化とすべての面において中国を規範とし、学問、教育の中心を漢学において、中国文化圏の一員であることを当然のこととして受けとめていました。家康や義直の書物収集、さらに尾張の学者達の優れた業績も、中国文化の担い手としての自覚に基づいていたと言えましょう。尾張藩御文庫の創設とその発展についても、韓国、日本などを含めた中国を中心とした文化の大きな流れのなかに位置づけてみる必要があるのではないのでしょうか。

御文庫御蔵書目録 天明2年（1782）河村秀頼編 5冊 28.5×19.2cm



御文庫を管理する書物奉行を勤めた河村秀頼（1718～83）が、在任中に編纂した御文庫初の分類目録。中国伝統の四部分類を採用、さらに各部ごとにいくつかの類を立てて分類し、経・子・史・集各1冊に、本朝書籍1冊で5冊にまとめられている。なお、書名の頭に付せられた「天」「地」などの千字文による文字は、歴代藩主など旧蔵者をしめしている。それまで御文庫の目録は、歴代藩主の所蔵者別目録で、四部分類によった分類目録は、当時は、幕府、諸藩においても例がなかった。

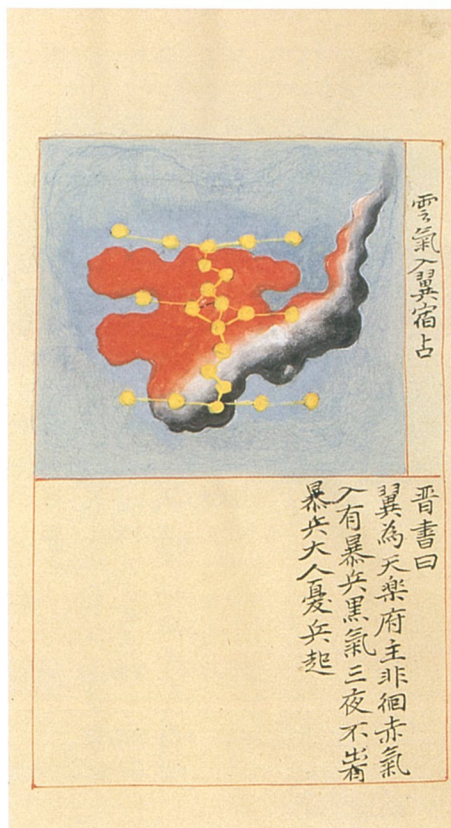
参考 杉浦豊治著

「蓬左文庫典籍叢録」



天文図象玩占 明時代写

28.5×16.7cm 4冊



日、月、星、雲の動き、状態、これら相互の位置関係など天空に起こるさまざまな現象から、世の吉凶を予測するための書物。「晋書」「宋志」など中国の古い書物に記された内容を図によって示している。同じような内容の書物で印刷されたものも存在するが、動きや位置関係だけでなく、その色彩も重要な要素となったため、写本で伝えられる必要もあった。

尾張藩御文庫の蔵書となった時期は、明確ではないが、二代藩主光友(1625～1700)の時代までに収集された書物のひとつである。蔵書の収集が四書五経を中心とした中国の古典に限らず、広い分野にわたっていたことを物語っている。

なお、上は天下に慶事の発生を予見する太陽と雲の状態を、左は、騒乱の発生を予見する星と雲の状態を示している。



江南全図（清朝中外輿地図32枚の内） 嘉永4年（1851）写 40.7×43.2cm 1枚

中国の中東部、上海を含む江南（現在の江蘇・安徽省）の18世紀初頭の地図。清朝時代の中国本土とその勢力下にあった周辺地域を32枚に分割して描いた詳細な図の内の1枚である。康熙帝（1654～1722）の命によりイエズス会士の指導で1708～1717年にかけて作成された西洋式の測量方による中国図「皇輿全覧図」の写しと見られる。現在、同図の詳細な写しは、日本国内でもこの他に数点しか確認されておらず、とくにこのように彩色されたものは珍しい。「皇輿全覧図」の原本は、現在中国にも残っていないが、18世紀にヨーロッパに伝えられた同図の原稿にもとづいて作成された中国図が最近まで使用されていたほど正確なものであった。

本図は、32枚それぞれ大きさが異なるが、すべて29.2×19.2cmの大きさに畳まれ、二つの帙に納められている。最終図の裏表紙にある深田精一（尾張藩士、漢学者、1801～55）の識語によると、嘉永4年（1849）鈴木容蔵常明（1811～70、尾張出身の蘭方医、長州征伐にも随行。地理製図等に強い関心をしめした。）の所蔵図を、加藤富三郎高能（詳細不明）が、時の尾張藩主慶恕（のち慶勝、1824～83）のために写し、献上したものであるという。

蓬左文庫資料翻刻影印一覧 (1)

蓬左文庫の所蔵資料には、天下の孤本ともいふべき貴重な写本が数多くありますが、一方で資料提供がしにくい点もあります。そこで、少しでも、手軽に利用していただくために、九牛の一毛にすぎませんが、蓬左文庫資料を底本として翻刻、影印されているものを機会をみつけて紹介します。

今回は、蓬左文庫が編集した「名古屋叢書」と近年の出版物に翻刻掲載されたものを取り上げました。

資料名 (資料番号)	収載書(誌)名(発行所)	資料名 (資料番号)	収載書(誌)名(発行所)
岩根松 (堀-567)	名古屋叢書三編17巻	寛延記草〔道学資講222〕 (40-1)	名古屋叢書 1巻
円覚院様伝十五箇条 (129-19)	名古屋叢書 1巻	狂言由緒略書〔青窓設筆4〕 (33-2)	武庫川国文 13号
円覚院様伝十五箇条輯録来由 (129-20)	"	金城温古録 (127-34)	名古屋叢書続編 13~16巻
御勝手改革一条 (31-26)	" 10巻	君戒 (130-24)	名古屋叢書 1巻
御国産吟味之留 (139-65)	" 11巻	軍語摘要 (12-149)	国語学論集1輯 (笠間書院)
御国法検地古伝〔天保会記38〕 (28-5)	" 10巻	河内本 源氏物語 (164-8)	尾州家河内本 源氏物語 (武蔵野書院)
御日記頭書 (139-1)	" 5巻	系譜 (144-1)	名古屋叢書三編 1巻
尾張諸臣十二格之事 (31-27)	" 3巻	紅葉集 (31-31・32、146-83)	名古屋叢書 24巻
尾張国御法度之古記 (31-46)	" 2巻	御系譜 (144-37)	名古屋叢書三編 1巻
尾張俗諺 (146-128)	名古屋叢書三編 8巻	新刻 古事記述言 (54-10イ)	名古屋叢書 1巻
温知政要 (128-69)	名古屋叢書 1巻	後水尾院 諸国盆踊乃歌〔続学 舎叢書5〕 (10-1)	歌謡 研究と資料 3号 (歌謡研究会)
開帳談話 (29-73)	芸能史研究90号 (芸能史研究会)	三世紀事略 (27-69)	名古屋叢書 5巻
雅語訳解 (山-118)	名古屋叢書三編 15巻	自讃歌 (106-24)	自讃歌古注十種集成 (桜楓社)
家事雑識 (146-187)	" 12巻	時習館堂制 (147-153)	愛知県教育史 資料編近世1 (愛知県教育委員会)
唐鏡 (108-67)	唐鏡 (古典文庫)	しのびね物語 (107-27)	都留文科大研究紀要 11・12号

資料名（資料番号）	収載書（誌）名（発行所）	資料名（資料番号）	収載書（誌）名（発行所）
しのびね物語 (107-27)	群馬県立女子大学紀要3号 蓬左文庫蔵 しのびね物語 (笠間書院)	仏制比丘六物図抄 (104-72)	近代語研究 4集 (武蔵野書院)
清水冠者物語 (107-40)	しみつのくはんしゃ 〔碧沖洞叢書20〕	物品識名 物品識名拾遺 (74-19)	名古屋叢書三編 19巻
初学文宗 (128-38)	名古屋叢書 1巻	平家花揃 (1-13)	説林13号(愛知県立女子 大学)「平家花揃伝本考」
諸事留 卷三 (26-66)	愛知県教育史 資料編近世2	平治物語〈平がな本〉 (101-9)	続国語学論考及び資料 (和泉書院)
諸生階級〔道学資講1〕 (40-1)	名古屋叢書 1巻	編年大略 (127-63~65)	名古屋叢書 4巻
諸生規矩〔道学資講1〕 (40-1)	"	保元物語〈平がな本〉 (101-9)	説林 37・38号 (愛知県立大学)
新堂開講儀〔道学資講223〕 (40-1)	"	芳躅集 (29-71)	名古屋叢書 25巻
新堂积業儀〔道学資講223〕 (40-1)	"	乙未 本草会物品目録 (41-8)	名古屋叢書三編 19巻
葎の滴 諸家雑談 (30-95)	名古屋叢書三編 12巻	水鏡 本文及び総索引 (107-25)	水鏡 (笠間書院)
趣庭雑話 (127-46)	" 24巻	昔咄 (127-69)	名古屋叢書 24巻
千宗室献湯の事〔天保会記34〕 (28-5)	愛知県教育史 資料編近世2	夢想倭漢 (128-39)	" 15巻
俗語弁 (山-20)	名古屋叢書三編 15巻	明倫堂始原 (31-15)	名古屋叢書 1巻
泰西本草名疏 (41-9)	" 19巻	明倫堂読書階級 (30-156)	愛知県教育史 1巻・日本 書誌学大系52 (青裳堂書店)
玉造小町子壮衰書〔群書類従 巻136〕 (76-1)	成城国文学論集 18輯	柿の落葉 (139-91)	名古屋叢書 24巻
名古屋行見聞筆記 (堀-557)	金城国文 55	野夫談 (堀-580)	名古屋叢書三編 18巻 (2)
名古屋御祭礼旧記 (139-115)	愛知県教育史 資料編近世2	横井也有自画讃〔天保会記 33〕 (28-5)	愛知県教育史 資料編近世2
俳諧漢和手引草 俳諧漢和燈下吟 (堀-579)	名古屋叢書三編 1 18巻 (1)	四谷御家 井大久保川田久保 御家御系譜 (145-35)	名古屋叢書三編 1巻
初錦木物語 (堀-783)	金城国文 59号	よるのつる〔群書類従292〕 (76-1)	相模女子大学紀要 44号
人見弥右衛門上書 (中-223)	名古屋叢書 1巻	蘿窓集 蘿窓集余白 (堀-249)	名古屋叢書三編 16巻 " 18巻 (1)
尾陽産物志 (148-73)	" 11巻	(資料名五十音順)	

出版物一覽

名古屋市蓬左文庫漢籍分類目録(S .50年刊) 3,500円
 名古屋市蓬左文庫国書分類目録(S .51年刊) 4,000円
 名古屋市蓬左文庫古文書古絵図目録(同) 2,500円
 尾崎久弥コレクション目録第一～三集 各 1,500円
 名古屋叢書(正編)索引・総目録(S .53年刊) 2,000円
 名古屋叢書続編 索引(S .47年刊) 700円
 名古屋叢書続編総目録(S .44年刊) 400円
 善本解題図録第一～三集(S .55年再版) 各 300円
 蓬左文庫・源氏物語図録(S .53年刊) 300 円
蓬左文庫所蔵古地図複製 No. 1 ～No.15(S .55～61年刊)
各 1,800円

- | | |
|------------|--------------|
| 1.尾府名古屋図 | 2.尾州名古屋御城下之図 |
| 3.名古屋図 | 4.尾張八郡図 |
| 5～15.尾張志付図 | |
| 5.尾張図 | 6.愛智郡東 |
| 7.愛智郡西 | 8.春日井郡 |
| 9.智多郡 | 10.熱田 |
| 11.丹羽郡 | 12.海東郡 |
| 13.海西郡 | 14.中島郡 |
| 15.栗栗郡 | |

御本印型書鎮(S .58年製) 1,000円
 堀田文庫蔵書目録(S .58年刊) 500円
 蓬左文庫絵葉書 < 8 枚組 > (同) 300円
 蓬左文庫図録(同) 1,500円
 蟹江慶次郎旧蔵書目録(S .62年刊) 500円

名古屋叢書三編 全19巻20冊(S .56～63年刊)各3,000円

1. 尾張徳川家系譜
 2. 尾藩世記 上
 3. 同 下
 4. 士林浜廻続編
 5. 尾張年中行事絵抄 上
 6. 同 中
 7. 同 下
 8. 張州年中行事鈔・尾張俗諺・尾張童遊集
 9. 松濤棹筆(抄) 上
 10. 同 下
 11. 楽寿筆叢・十如是独言
 12. 葎の滴 諸家雑談・家事雑識
 13. 天保会記鈔本
 14. 金明録
 15. 尾張方言・水かはり・浪越方言集・宮訛言葉の掃溜・雅語訳解・俗語弁
 16. 横井也有全集上 (発句・和歌編)
 17. 同 中 (俳文・俳論俳話編)
 18. (1) 同 下(1)(連句・漢詩文編)
 18. (2) 同 下(2)(狂歌・談義・伝記資料・追加・参考編)
 19. 物品識名・物品識名拾遺・本草会物品目録・泰西本草名疏
- 名古屋叢書三編総目録・索引(H .2年刊) 3,000円

★以上の出版物は、本文庫事務室において頒布しています。
 郵送希望の方は郵送料が必要ですので、お問い合わせ下さい。(ただし、古地図複製は郵送不可)

利用ご案内

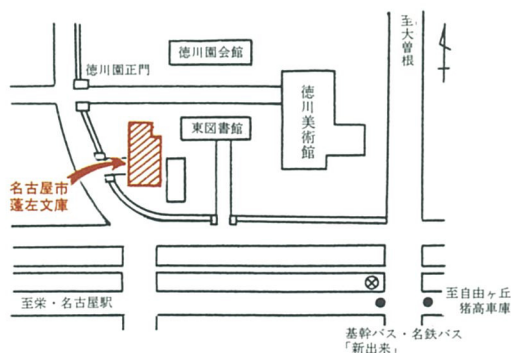
- ▷開館時間 午前9時30分～午後5時
- ▷休館日 毎月曜日・第3金曜日(館内整理日)
 祝日(日曜に重なる場合は日曜開館、月・火休館)
 月曜 " 月・火休館
 特別整理期間
 年末年始(12月28日～1月4日)
- ▷閲覧 館内に限り、館外貸し出しはいたしません。
- ▷展示 随時蔵書の一部を展示
 (特別展を除き入場無料)
- ▷複写サービス 保存上影響のないものについて複写サービス(マイクロフィルム利用他)を行います。ご来庫の上、ご相談下さい。

名古屋市蓬左文庫

〒461 名古屋市中区徳川町1001番地

☎(052) 935-2173

〈名古屋駅から〉市バス(基2)「自由ヶ丘」「猪高車庫」行
 名鉄バス「本地ヶ原方面」行
 〈栄から〉市バス(基2)「引山」「自由ヶ丘」
 「猪高車庫」行
 「新出来」下車、徒歩4分



「蓬左」第48号 ☆平成4年10月3日発行 ☆編集・発行：名古屋市蓬左文庫(東区徳川町1001番地)

☆無料 ☆不定期刊行 ☆印刷：大同印刷株式会社(東区泉2-3-18)